

平成21年度プレストレストコンクリート技術協会賞（論文部門）を受賞！

李春鶴助教、池田正志技術専門職員、辻幸和教授

平成22年5月26日に行われた、プレストレストコンクリート技術協会第51回通常総会において、李春鶴助教、山口光俊（OB、現富士ピー・エス）様、池田正志技術専門職員、藤本晃輔（OB、現JR東日本）様、辻幸和教授が平成21年度（第37回）プレストレストコンクリート技術協会賞（論文部門）を受賞した。

本賞は、プレストレストコンクリート技術協会機関誌、プレストレストコンクリートの発展に関するシンポジウム論文集、本協会の各種刊行物に発表された研究論文、工事記録等について、応募および選考委員より推薦された中から選定したもので、研究内容および成果がきわめて優れたものであり、プレストレストコンクリート（PC）技術の進歩と発展に著しい貢献をされ、PC技術を用いた構造物の将来の方向を示すとともに、社会基盤施設の形成に大きく寄与するものと認められたのである。本年度受賞は、論文部門2件、作品部門7件、技術開発部門1件、施工技術部門2件の計12件である。

今回の受賞の対象になった研究のタイトルは、「高炉スラグ微粉末を併用した高品質なPCグラウトの製造」を総合題目とした研究で、第17回、第18回のプレストレストコンクリートの発展に関するシンポジウム論文集に投稿した関連論文が受賞対象である。これは、辻教授を代表とする群馬大学PCグラウト研究チームの十数年にわたって行った、ミキサなどの製造設備の研究開発、高炉スラグ微粉末などの産業廃棄物の積極的な利用、さらに、PCグラウト用混和剤、高性能AE減水剤の適切な組合せを選定して、腐食性のある構成成分を極力抑えたうえで、所要の流動性、材料分離抵抗性、収縮性状を保持しながら、60MPa以上という高い圧縮強度を有するPCグラウトを開発するに至った実験成果を報告したものである。本研究の成果は、既に実用化され、更なる発展が期待される。



授賞式懇親会での写真

（左から、李春鶴、藤本晃輔、辻幸和、山口光俊、池田正志）